

2. 厚生労働科学研究費補助金（免疫、アレルギー疾患政策研究事業）

分担研究報告書

季節性アレルギー性鼻炎の診療実態、経済的影響の検討

分担研究者 岡本 美孝 千葉労災病院 病院長

研究要旨

季節性アレルギー性鼻炎の診療実態、経済的影響を明らかにするため、匿名医療保険等関連情報データベース解析から、全国での季節性アレルギー性鼻炎患者の医療機関受診者数、関連医療費といった受療状況を検討した。

2018 年、2019 年に、連続して 1 シーズン 4 か月 16 週間のうち 14 日以上処方を受けた医療機関受療者数は、日本全体で春期受療者は 1293 万人、夏期は 570 万人、秋期は 612 万人であった。都道府県別による受療者数は、人口数、花粉飛散数との関連が示唆された。性差については女性の受療者が多かった。年齢別では、30 代、40 代以降での受療者は増加していた。通院回数は平均すると 1 シーズン 3 回程度であった。

関連医療費は、全体で平均すると春期 1243 億円、夏期 480 億円、秋期 550 億円で、このうち治療薬費はそれぞれ 1018 億円、388 億円、424 億円であった。

研究協力者

奥野泰之・臨床疫学研究推進機構 代表理事
野田龍也・奈良県立医科大学公衆衛生学 准教授
郡山みな美・千葉労災病院 医員
黒川友哉・千葉大学医学部附属病院 臨床試験部 助教

A. 研究目的

国民病と言われる程患者の増加が続いているスギ・ヒノキ花粉症を中心に、季節性アレルギー性鼻炎の診療実態、経済的影響を明らかにするため、匿名医療保険等関連情報データベース (NDB) 解析から、全国での季節性アレルギー性鼻炎患者の医療機関受診者数、関連医療費といった受療状況を明らかにする。

B. C 研究方法と結果

研究班で作成した解析計画書を基に、全国での 2018 年、2019 年のレセプトデータの解析を行った。

2018、2019 年の 2 シーズンに連続して受診した医療機関受療者数は、日本全体でスギ花粉症を中心とした春期受療者は 1293 万人、夏期は 570 万人、秋期は 612 万人であった。女性の受療者が 1.4 倍程度多かった。年齢別では、小学生になると一旦増加、その後減少し、30 代、40 代以降での受療者は増加していた。特に 70 歳代以降の受療者は受療者全体の中で春期 19%、夏期 29%、秋期 27%と高い割合だった。

都道府県別による受療者数は、人口数と関連が見

られたが、人口当たりでみると、春期はスギ花粉飛散数の多い地域で受診者が多かった。

通院回数は平均すると春期 3.1 回、夏期 3.5 回、秋期 3.7 回で、夏期、秋期はいずれの年も春期より

やや多かった。また、約 80%は無床診療所に通院しており、病院での受療者は 10%程度であった。

医療費は、全体で平均すると春期 1243 億円、夏期 480 億円、秋期 550 億円で、このうち治療薬費はそれぞれ 1018 億円、388 億円、424 億円であった。

個々の季節性アレルギー性鼻炎患者でみると、季節性アレルギー性鼻炎関連総治療費は春期 (9611 円) が夏期 (8409 円) や秋期 (8989 円) よりやや高かった。治療薬費用も春期が高いが、診療行為費用は夏期、秋期の方が高かった。総医療費は春期 (14475 億円) と、夏期 (999 億円)、秋期 (9627 億円) より高かったが、患者一人当たりでみると逆に春期 (111,940 円) は低かった (夏期 157,620 円、秋期 153,212 円)。

D. 考察

2018 年、2019 年の全国的にスギ花粉飛散が多かった年に、スギ花粉症を中心とした春期の季節性アレルギー性鼻炎で医療機関を受診した患者数は 1293 万人であった。以前、我々がおこなっていた厚生省科学研究で一般住民検査からの報告ではスギ花粉症患者の約 6 割が医療機関で治療を受けていた。また、インターネットを用いた検討結果でも約 6 割が医療機関を受診していた。国内の正確なスギ花粉症患者数は不明であるが、疫学調査からは 5,000 万人程度とも想定されている。今回の検討から少なくとも医療機関で一定期間治療を受けている患者数は 1293 万人で、OTC 医薬品による治療者や無治療者を除いても想定される受療者数からは低い数字であった。今回、アレルギー性鼻炎治療薬処方の際の保険病名を排除するため、シーズン当たり 2 週間以上の処方投与を 2 シーズン連続して受けた患者を該当患者と抽出して解析したことから、背景に季節性アレルギー性鼻炎患者には、医療機関やガイドラインで示されている推奨とは異なった受療実態があると考えられた。

E. 結論

全国的にスギ花粉飛散が多く見られた 2018 年、2019 年の全国での NDB 解析から、医療機関で治療が必要と判断している患者数は 1300 万人程度と考えられた。また、医療機関での春期の季節性アレルギー性鼻炎関連の医療費は全体で 1243 億円、夏期 480 億円、秋期 550 億円であった。年間の季節性アレルギー性鼻炎患者の医療機関での医療費は 2273 億円程度と考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録情報

なし